

八ッ場ダム住民訴訟通信-112

2015年9月13日発行

2016年度八ッ場ダム本体工事費概算要求 222億円。

されど危ぶまれる 2019年度完成。

8月27日、国土交通省は2016年度予算の概算要求を発表しました。注目の八ッ場ダム本体工事を含む事業費は222億3000万円。2015年度に比べ1.86倍にも達する膨大なものです。八ッ場ダム本体工事費は昨年度の予算に初めて組み込まれ、当初の計画では2014年の秋には本体工事を始める予定でしたが、準備工事の遅れにより本年1月にずれ込んでいました。

国土交通省関東地方整備局は本年2月、八ッ場あしたの会の公開質問書に対して「本体工事の最初の段階である基礎掘削工事のうち、ダム本体右岸天端以下の掘削開始時期が約10ヵ月遅れ、本格的な掘削工事は8月頃になる」と回答しています。不安定な地質、すでに水余りの状況は急ぐ必要を欠いています。2019年度完成は事業者の面子だけのもの。はたして完成は何時になるのか。何時になるにしても無駄なものは無駄です。

そして現地を見れば、工事用道路にするはずの旧国道は未買収地が残り、その為、あの十字架と称された現不動大橋の奥にある採石場から積み出した石は本体工事現場に運び出せず、吾妻川の兩岸から川底に投げ落とすという惨状を呈しています。そこには名勝吾妻溪谷を惜しむという気持ちは欠片ほども見られません。

膨らみ続ける公共事業費と防衛費。

財界の希望に応え、国民は置き去り。

無駄な公共事業の象徴ともいえる八ッ場ダム本体工事予算が付くと言うことは、公共事業費全体も膨らむということ。2016年度公共事業費概算要求は2年連続6兆円超えの6兆6791億円(前年比15%増)。「コンクリートから人へ」は霞の彼方へ消え去ってしまったようです。そして防衛予算は安倍政権になってから3年連続拡大を続け、2016年度はついに5兆円超えを確実にする5兆911億円を要求。着々と経済界と何処かの国の要望に応え、国民を置き去りにする亡国への道をひた走っています。

八ッ場ダム効果の怪…吾妻川の流水の正常な維持。

この通信ではあまり触れなかったのですが、国が言う八ッ場ダムの効果には、治水・利水などと並んで「吾妻川の流水の正常な維持」なるものがあります。流水の正常な維持とは、川が川らしくあるように一定以上の流量を保つということ。例えば、霞ヶ浦導水事業は、新規都市用水を開発するにあたり、利根川と那珂川の流量を安定的に維持することを目的としていますから、極端な話「流水の正常な維持」のための事業ともいえます。ところが、1994年に利根導水路が先行して完成。試験的に霞ヶ浦の水を利根川へ流したところ大変な漁業被害が発生、今日まで利根水門は“開かずの水門”になっています。このような、国にとって不都合な問題は棚上げされ、導水路は那珂川と霞ヶ浦の話にすり替えられて、もっぱら「霞ヶ浦の浄化」に注意をそらしているのです。

八ッ場ダムの話でした。普通、ダム建設に伴う「流水の正常な維持」とは、ダムによって堰き止められた下流の流量の回復を意味しますが、八ッ場ダムの場合は姑息にも、現状

の吾妻川の流量は不安定であり、ダムによってそれを回復するとしているのです。とんでもない話です。もともと吾妻川は流量の少ない川ですが、晴天時などに極端に少ない状況が生まれるのは、ダム予定地の upstream に東京電力の松谷発電所用の取水堰があり、大量に取水しているからです。しかし、これは国土交通省が許可したものです。流量不足の責任は国土交通省にあるのです。そうした事実を隠して、ハッ場ダムは毎秒 2.4 トンの水を補給するから、「不安定な吾妻川の流水を正常に維持してやる」と、あたかもハッ場ダムの“手柄”のように吹聴し、厚かましくも、その便益 97 億円を群馬県に負担しろとしているのです。

姑息な行為はオソマツな現実を露呈します。東京電力の水利権は 2012 年 2 月に更新の時期を迎えました。“良くしたもので”というべきか、更新時には、これまでと違い「河川の流量の維持」が義務づけられます。2013 年 4 月、東京電力は水利権更新の許可申請書に添えて「松谷発電所水利権更新申請における河川維持流量の再検討について」なる書類を提出しました。そこには、吾妻川取水ダム(長野原取水堰)から毎秒 1.727 トンを放流し、ダム予定地までの沢水などの流入量 0.673 トンを合わせ、ハッ場ダム予定地で毎秒 2.4 トンを確保するとしているのです。つまり、ハッ場ダムなど作らなくても、黙って東京電力に水利権更新を許可すれば、「流水の正常」は回復するのです。

治水・利水の必要もなく、自然を破壊し、危険を誘発する無駄なダムに 4600 億円もの事業費をかける後ろめたさが、「流水の正常な維持」なる虚構をデッチアゲざるを得なかったのでしょうか。この国の権力の横暴と姑息さには眩暈がします。

なお、ハッ場ダムは治水や利水のための放流水を利用する従属発電で年間 4,100kw 発電するとしていますが、そのためには東京電力の取水は大幅に制限され、発電量も大幅にカットされます。現在吾妻川流域の、東京電力の発電量は年間 17,000~20,500kw。膨大な発電量を損ないながら、自然エネルギーの確保と大見栄をきっています。嗚呼。

■第 11 回ハッ場ダムをストップさせる茨城の会総会

日時:2015 年 11 月 29 日(日)午後 1 時予定

場所:取手福祉交流センター 多目的ホール

取手市役所の敷地内、向い側。

映画「ダムネーション」上映予定

アメリカには 75000 基ものダムがあります。そのほとんどが用をなさず、自然の息の根をとめるだけの存在になっていました。いま、ダム撤去の動きが始まりました。これまで「クレージー」と言われつづけた人々の闘いと、命を吹き返す川と自然の美しさが魂を揺さぶります。私たちの闘いと重ね合わせてご覧ください。

■1 都 5 県ハッ場ダム訴訟 11 周年報告集会

日時:12 月 13 日(日)午後 場所:全水道会館(JR 水道橋)

講演:宮本博司(元・近畿地方整備局河川部長、元・淀川水系流域委員会委員長)

ハッ場ダムをストップさせる茨城の会 代表:濱田篤信 船津寛

事務局:神原禮二 〒302-0023 取手市白山 1-8-5 携帯:090-4527-7768